

鹿児島駅周辺土地利用の基本的な考え方(中間案)

これまでの鹿児島駅周辺土地利用検討委員会に基づく土地利用の考え方

土地利用の理念

まちの風情 / 新しいものと緑・静けさ・歴史・景観の融合

- 都市としての風情をどう作るか。新旧関係なくそれなりの風情を作ることにはできる。新しいものと緑や静けさ、歴史、景観を融合させることが重要である。
- 鹿児島駅周辺で「鹿児島」を感じてもらおう。上町は人のおいしがし、自然や歴史のあるまちである。
- 地元住民は必ずしも開発や人口増を望んでいる訳ではない。
- 経済活動盛んな賑やかさを求めるか、それとも今のような落ち着いたまちを目指すか。どの方向を目指すのか理念が必要である。

土地利用の方針

鹿児島中央駅との差別化 / 旧本駅

- もともとは鹿児島駅が本駅だった。今後は鹿児島中央駅と役割分担していくことが重要だと思う。
- 鹿児島駅が変われば県外からの集客も期待できるのではないと思う。
- 鹿児島中央駅とまったく逆のまちづくりを目指すと思う。
- 緑を生かした整備は鹿児島中央駅との差別化として明確で分かりやすい。

ローカリティを活かす / 地域資源の活用、地域文化・コミュニティ

- 鹿児島駅の周辺には、仙巖園や新波止砲台跡の間近を往来する桜島フェリー、神社仏閣等が近くにある。ストーリー・素材が沢山ある。
- 地域文化やコミュニティの視点は重要である。

にぎわいの創出 / 人の動き

- 昼間・夜間人口とも減少。人の流れが少ない。
- 様変わりした鹿児島中央駅は人も集まる出発点。一方、鹿児島駅の辺りは寂れてきた印象がある。
- 観光客、市民、地域住民が楽しめるにぎわいの施設があると良い。

導入機能

緑 / 花と緑の回廊、まちに溶け込む緑、森の中の駅・まち、緑に囲まれた空間

- 花と緑の回廊は良い。市電の軌道敷緑化は路面電車サミットでも褒められた。
- 鹿児島駅から眺めるとこれまでに植樹された樹木が木々に育ち、木々の緑がまちと溶け込んでいる。
- 森の中に駅やまちがある整備イメージがよいのではないかな。
- 上町には「緑」が足りないと感じている。
- 「緑」がキーワードになる。大きな商業施設ではなく、イベント開催など様々な利用に対応できる、緑に囲まれた空間がよいのではないかな。
- 市電軌道敷緑化とも調和する「都市の杜」(花緑拠点)創出の具体的展開。

市(いち) / 歴史を踏まえた「市」の展開

- 上町は南九州最大の「市」があったところであり、商店街活動発祥の地でもある。これらをアピールするには、「市」がキーワードになると思う。
- 八戸市では朝市がフリーマーケットのように開催され人気がある。生鮮・青果品だけでなく喫茶、アクセサリーなど取扱品の幅が極めて広い。鹿児島でも需要があるのではないかな。

交通結節 / パーク&ライド、観光バス駐車場

- 鹿児島駅周辺は始良側からの交通結節点となっている。市電・駅至近の交通結節機能が高い立地を踏まえ、市電等も取り入れながらパーク&ライドへの取組に可能性があると思う。
- 磯地区が世界遺産登録されれば現地に観光バス駐車場が設置困難となる。その代替駐車場も考えられる。
- 路面電車の使い方として、市電とJR駅の結節のさせ方も重要である。
- インフラ整備を合わせて実現することが重要である。

空間の使い方

フレキシビリティ / イベント対応、ハレ(非日常)とケ(日常)、場面転換

- 祭りなど地域イベントで臨時的に利用できる空間が欲しい。
- 恒常性(日常的集客)と臨時性(何かあったときに利用できる)の両面を求めたい。
- フットサルなどスポーツ施設やドッグランなどターゲットを明確にした施設があっても良い。

その他

- 上町に地域のイベント時等に観光客も利用できる広い駐車場があると良い。
- 人が住むことが重要で定住人口増への方策が考えられると良い。
- 導入機能の検討にあたっては、優先順位が必要である。

上位計画の視点

第五次鹿児島市総合計画(案)(23年度末策定予定)

◆鹿児島市の都市像

人・まち・みどり みんなで創る

“豊かさ”実感都市・かごしま

◆リーディングプロジェクト

“ディスカバーかごしま”文化創造プロジェクト

“食の都かごしま”チャレンジプロジェクト

“花と緑の回廊”環境創出プロジェクト

◆上町(鹿児島駅周辺)地区のまちづくりの方向性

(第1回土地利用検討委員会より)

地域資源を生かし、交流・にぎわいや花と緑にあふれる、北の玄関口にふさわしい新たな都市拠点の形成

地域住民の意見

◆これまでの地域住民からの土地利用に関する意見分類

【分類】

- ・観光
- ・医療、福祉
- ・運動、スポーツ
- ・公園、緑地
- ・居住、暮らし支援
- ・地域コミュニティ
- ・交通 等

土地利用の目指すべき方向

- ・花と緑の印象的な空間とまちの風情の創出
- ・豊かな地域資源の活用とまちの記憶の継承
- ・人情味や暮らしの中心となる活気のある空間
- ・交通の結節点として方々からの人の来訪
- ・様々な利用に対応できるフレキシブルな場面転換

3つの導入機能

緑の空間

- ・安らぎ、憩い
- ・健康増進、スポーツ
- ・イベント利用 等

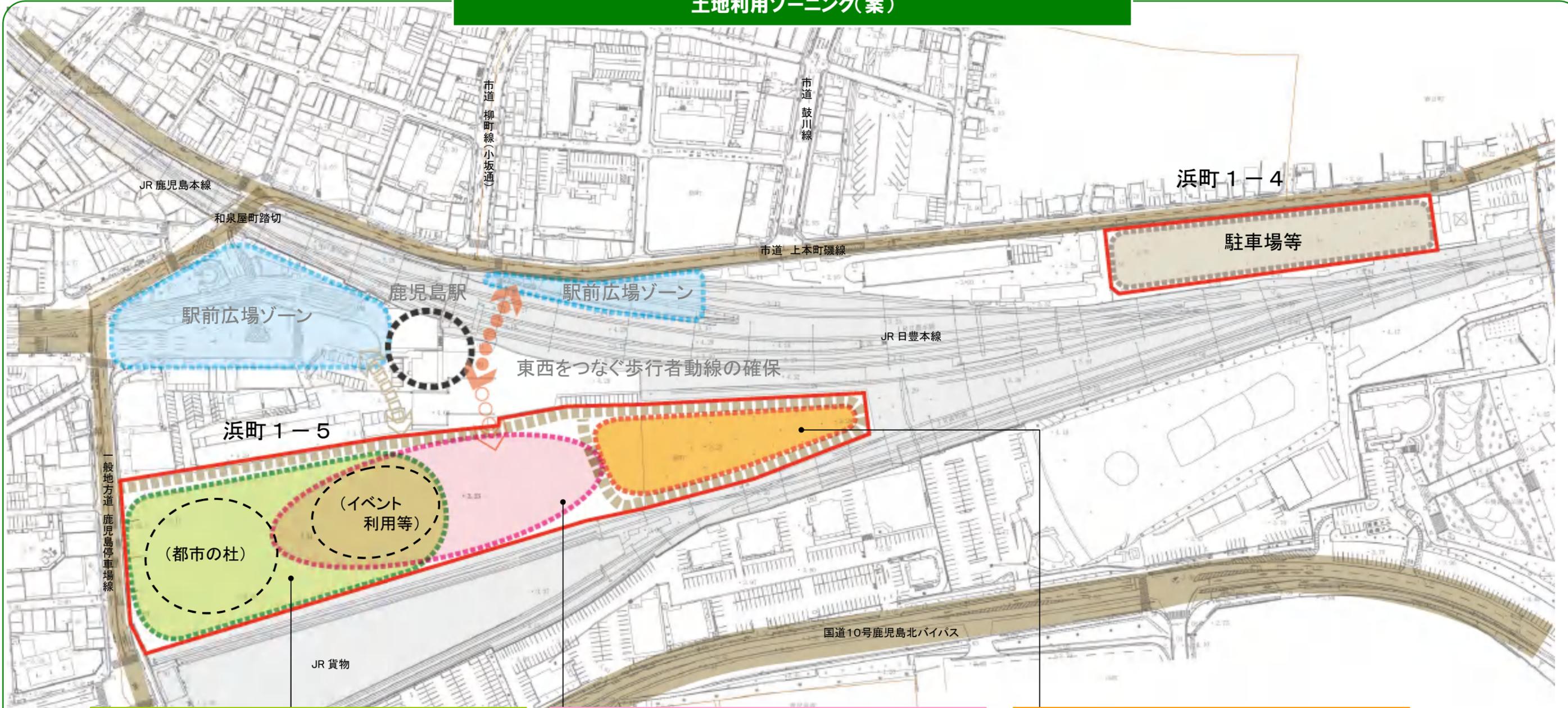
市(いち)・にぎわい

- ・観光、物産
- ・交流、コミュニティ
- ・イベント利用 等

駐車場・交通結節

- ・観光バス
- ・パーク&ライド 等

土地利用ゾーニング(案)



「緑の空間」ゾーン

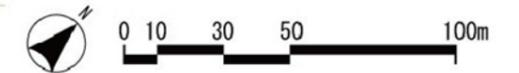
- **安らぎ・憩い**
 - ・ 花と緑の彩りにあふれ、心地よく憩い・安らぐことのできる「都市の杜」
- **健康増進・スポーツ**
 - ・ 散歩、ジョギング、フットサル等のスポーツやドッグランなど多様な利用
- **イベント利用等**
 - ・ フリーマーケットや郷土芸能披露等のイベント等での利用

「市(いち)・にぎわい」ゾーン

- **観光・物産**
 - ・ 鹿児島、上町の歴史や文化を体験・体感できる機能
 - ・ 地元の特産品や味を楽しめる物産・飲食施設
 - ・ イベント開催が可能な広場 等
- **交流**
 - ・ 観光客、市民、地域住民の交流・コミュニティスペース 等

「駐車場・交通結節」ゾーン

- ・ 隣接ゾーンやパーク&ライド等での利用のための駐車場
- ・ 観光バス駐車場を確保 等



※ この図は検討中のものを図化したものです。